

在韓公館選抜 韓国青年オンライン交流プログラムの記録

1. オンライン交流概要

【目的】テーマ「東日本大震災から10年、被災地復興視察」のもと、被災地復興の取組みを学ぶとともに、オンライン視察では福島県を訪問し、復興の状況、特産の農水産品の紹介及び地域の方々との交流を通じて理解を深め、韓国で対外発信することにより福島を含む東日本大震災被災地の風評被害を払拭することを主目的とする。

【参加者】韓国の大学生及び高校生69名

【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応(参加者の人数 実績)
1回目 1月22日 福島県、埼 玉県	<p>【オリエンテーション】</p> <p>【オンライン視察】高麗神社</p> <p>【テーマ関連講義・意見交換】</p> <p>「最近の日韓関係」</p> <p>講師：外務省 武田克利 日韓交流室長</p> <p>①講義 ②質疑応答</p> <p>「福島風評被害払拭」</p> <p>講師：福島県出身のJENESYS事業参加学生</p> <p>① 福島の魅力紹介 ②質疑応答</p>	<p>最近の日韓関係に関する講義では、「日韓交流のために自身がどのような貢献ができるか」等、日韓関係や交流促進に関する質問が多数あった。</p> <p>JENESYS参加経験のある同世代の発表者による福島に関する発表は大変好評で、参加者と活発な意見交換が行われた。「福島の地域的特性、震災からの復興と継承について学ぶことができた」等の肯定的な感想が多く聞かれた。 (参加者：69名)</p>
2回目 2月5日 岩手県、宮 城県、福島 県	<p>【テーマ関連講義・意見交換】</p> <p>「東日本大震災復興の足跡を学ぶ」</p> <p>① 東日本大震災復興ドキュメンタリー映画 「一陽来復」鑑賞</p> <p>② 講義・質疑応答</p> <p>講師：「一陽来復」尹美亜監督 ゲスト：遠藤伸一氏(出演者)</p> <p>【テーマ関連視察・交流】</p> <p>「福島風評被害払拭」</p> <p>①福島県観光物産館-福島の農水産物紹介-</p>	<p>質疑応答では非常に活発な意見交換が行われた。</p> <p>「東日本大震災についてよく知らなかったが、映画や質疑応答を通して深く知ることができた」、 「東北地方の自然災害克服や福島の観光商品等、詳細に知ることができた」、「福島放射能に関する偏った認識や偏見を打破することができた」等の東日本大震災被災地への風評被害払拭に大き</p>

	<p>②福島大学キャンパスツアー</p> <p>③福島大学学生（JENESYS 事業参加学生）との質疑応答</p>	<p>くつながつたと思われる感想が多く聞かれた。（参加者：69名）</p>
<p>3回目</p> <p>2月19日</p> <p>大学生参加者対象</p>	<p>【成果報告会】</p> <p>【交流会】</p> <p>①日本の同世代との小グループ別での交流会実施</p> <p>②意見交換</p>	<p>総括として本プログラムで得た成果を1人ずつ発表し、参加者全員で共有した。東日本大震災からの復興状況を理解し、福島に対する認識が一変したという趣旨の発表が多くあり、プログラムを通じ参加者たちの風評被害払拭につながったことが確認できた。</p> <p>過去の JENESYS 参加者を中心とした日本の同世代との交流会では意見交換を通じ、コロナ禍の生活等について相互理解を深めた。</p> <p>（参加者：49名+日本人参加者：14名）</p>
<p>4回目</p> <p>2月26日</p> <p>高校生参加者対象</p>	<p>【成果報告会】</p> <p>【交流会】</p> <p>①日本の高校生との小グループ別での交流会実施</p> <p>②意見交換</p>	<p>総括として本プログラムで得た成果を1人ずつ発表し、参加者全員で共有した。プログラムで得た成果、福島についての情報を SNS 発信し、周囲の人たちに伝える活動を行った等の活動の報告も多く見られた。</p> <p>過去 JENESYS 参加経験のある高校生との交流会では、お互いの国の言語を交えながら意見交換を行い、相互理解を深めた。</p> <p>（参加者：20名+日本人参加者：19名）</p>

	
<p>2022年2月19日【交流・意見交換】日本の同世代と意見交換</p>	<p>2022年2月26日【交流・意見交換】日本の高校生と意見交換</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 大学生

オンライン上での訪日プログラムは初めてだったので、期待も大きく、緊張したが、大変楽しく、意義深い時間だった。特に、映画「一陽来復」の鑑賞では多くのことを感じた。生き残った人々はどのように暮らしているのか。どれほどつらく、悲しいか。私が実際に経験したことではないが、本当に心が痛んだ。また、メディアの言葉の一部は、刺激的で誇張されているということがわかった。もし、福島に訪問することになれば、今回のプログラムに出演されていた方々に一度お会いしたい。今回のプログラムを通じて、今までは少しセンシティブな地域だった福島に対する偏見がほとんどなくなり、将来的には福島を訪問してみたいと思うようになった。

◆ 韓国 大学生

以前は東日本大震災についてよく知らなかったが、今回のプログラム参加を通じて深く知ることができた。映画「一陽来復」の鑑賞等を通じ、福島について新たに知る機会となった。コロナで感じることでできなかった日本について、間接的にはあるが感じることもできた。私は今まで日本に対する関心が低かったが、それは日本について深く知ることができなかったからだと思う。今後も日本に関心を持ち、様々な活動を続けていきたい。

◆ 韓国 大学生

講義やオンライン視察の後に質疑応答の時間があつたため、関係者の様々な意見を聞くことができてよかった。また、毎回日本の方々とコミュニケーションを図る時間があり、オンラインではあつたが、十分に交流することができたと思う。福島の地域的特性、観光地等、様々な面を学ぶことができてよかった。特に、復興と継承についても知ることができたため、少しではあるが、実際に被災者の気持ちを感じることでできる時間だった。災害と福島について、改めて考える機会となった。最終日は、日韓の若者が自由に交流できる時間があり、よかった。

◆ 韓国 高校生

普段なかなか触れることのできない地域の特色や現地の魅力などを実際に現地の方々を通してリアルに感じる事ができた。今回のプログラムを通し日本について詳しく知ることができた。震災の体験のお話が鮮明に記憶に残った。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆福島県観光物産館関係者

福島県は原発事故があり、大変な思いをしながら10年が経過した。ALPS 処理水の海洋放出等の懸案事項も残っているが、間違った情報や視点の異なる意見があり、苦しんでいる部分も数多くある。確かなことは、地元の福島県民はいたって元気に、日々様々なものを食しながら日常生活を送っていることである。韓国の学生の皆さんもぜひ福島県を訪問し、本当の福島県の姿を見て感じていただければと思う。皆さんのお越しを心よりお待ちしております。

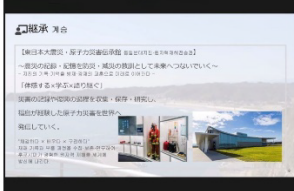
◆福島大学関係者

韓国の大学生に福島大学の取り組みを紹介できたことは私にとっても有意義な経験となった。現在、コロナ禍の影響でお互いに訪問することは難しい状況ではあるが、コロナが終息し韓国の学生の皆さんが福島を訪れ本学の学生と交流できる日が早く訪れて欲しいと願っている。

◆尹美亜監督

東日本大震災から10年、映画の公開からも既に4年経っているにも関わらず、韓国の学生達が真剣に映画を鑑賞してくれたことが大変ありがたかった。学生たちが、被災された方々の痛みと一緒に感じようとし、自分たちはここから何を学ぶべきで、何ができるのか、と自分のことのように受け止めてくれたように思う。またオンラインの利点で、石巻市在住の出演者・遠藤伸一さんの話を直接聞いてもらえたことも貴重な機会となった。

6. 参加者の対外発信、報道記事等




동일본 대지진의 기억의 전송

동일본 대지진에 대한 경험은 미래의 세대에 전해 언제든지 발생할 수 있는 재해에 대해 준비해가기 위해서 이러한 사실을 만들어 교육을 실시하고 있다고 합니다.

이 시설은 지진 재해를 예방하고 배우고 미래세대에게 전달할 것을 목적으로 있으며 후쿠시마에서는 이렇듯 재해 기억이 사라지지 않도록 예방할 수 있도록 다양한 노력들을 기울이고 있다고 합니다.

마지막으로 Q&A 시간을 가졌는데 후쿠시마 지역에 대한 그 지역 학생들의 의견을 직접적으로 들을 수 있어 유익하고 재밌는 시간이었습니다. 우리도 앞으로 그들의 노력에 대해 관심을 기울이고 배울 점이 많이 있을 것이라고 생각합니다.)

#한일교류 #한국청년방일단 #JENESYS2021 #일본여행 #후쿠시마 #동일본대지진 #한일친선



일본에 대해 나를 관심을 많이 갖고 있다고 생각했었는데 그동안 몰랐던 점이 정말 많았다는 것을 느꼈습니다. 특히 실제로 후쿠시마에 살고 있는 대학생들이 직접 후쿠시마에 대해 발표하고, 후쿠시마의 매력을 소개했던 시간은 정말 값진 경험이 되었습니다. 이번 온라인 방일단 활동을 하면서 후쿠시마에 대한 인식이 긍정적으로 변화할 수 있었고 저 또한 다른 한국 학생들에게 이러한 역할을 해야겠다는 생각이 많이 들었습니다.

2022年1月29日 (Blog)

「東日本大震災・原子力災害伝承館」をつくり、教育を実施しているそうだ。この施設は、地震災害を学び、未来世代に伝えていくことを目的としており、福島ではこのような災害の記憶が忘れられていくことを未然に防ぐため、様々な努力を続けている。最後に質疑応答の時間で、福島出身の大学生の意見を直接聞くことができ、有益で興味深い時間だった。今後、私たちも彼らの努力に関心を持ち続けるとともに、彼らから学ぶべき点は多いと思った。

2022年2月6日 (Instagram)

私なりに日本に対する関心は高いと思っていたが、これまで知らなかったことが本当に多かったのだと気づいた。特に、実際に福島在住の大学生が直接福島について発表し、福島の魅力を紹介した時間は、本当に貴重な経験となった。今回のプログラムでの活動を通じて、福島に対する認識が肯定的に変化し、私自身も他の韓国の学生たちにとって同じような役割を果たせればと強く思った。



후쿠시마 "동일본 대지진과 후쿠시마" 활동이 가장 인상 깊었다.

다음날부터 명확하게 유익할 감독님과, 지진 당시 가족을 잃은 피해자 선생님에서 직접 화상에 참가해서 영화에 대한 질의응답을 가지고 재해 당시의 참상을 생생하게 전달해 들을 수 있었다.

역시 시간이 지나도 일본의 큰 상처로 남아있는, 후쿠시마 지역에 대한 인식을 재고해 볼 수 있었던 부분이 큰 성과라고 생각한다.

사실 일본 국외의 미디어에서 비롯되는 편견은, 내진용인 변형의 이는 지역 정도로 취급하며 위험성이 존재하는 재난차이저 기피에 상응할고려하고 있는 것이 사실이다.

그러나 그 지역도 결국 시민과 시민이 공동체를 이루고 살아가는 커뮤니티라는 점을 보면 이해하는 걸까?

방일단 활동을 통해 정부의 피해복구와 부흥을 위한 노력, 대지진 속에서도 희생당한 피해자 개개인의 시간 들을 직접 듣고 배우는 과정속에서, 생각에 많은 변화가 생겼다.

자연재해는 비단 일본만의 사정만 아니다. 한국에서도 지속적으로 지진이 발생했던 경험이 있다.

이웃나라로서, 일본 후쿠시마 지역이 부흥을 위해 노력하는 과정을 배우고, 그 목표를 응원해야 하는 이유도 여기 있다고 생각한다. 그리고 이러한 과정 속에서 개개인 사람들의 머릿속 지역에 대한 기피도 해소될 것으로 기대된다.



他2人が「いいね！」しました

#한일교류 #한국방일청년단 #JENESYS2021 #日韓交流 #韓国訪日青年団

후쿠시마의 모르는 매력을 알 수 있었던 연속였다. 솔직히 전까지는 방사능 피해지역이라고만 생각했는데 연속을 듣고 나니 후쿠시마 내부에서도 철저하게 방사능 검사를 하여 상품을 생산하고, 후쿠시마 학생들은 후쿠시마의 장점을 알려주며 묵묵히 자신들이 할 일이나 공부를 이어나가고 있었다. 일본 여행 제한이 풀리게 되면 후쿠시마, 한번쯤은 가보고싶다!

訪日研修を受けた。福島、一度は行ってみたいいな~

2022年2月19日 (Instagram)

3週目の「東日本大震災と復興への努力」が最も印象的だった。(中略)やはり、時間が経っても日本の大きな傷として残っている福島への認識について、再考することができた点が大きな成果だと言える。(中略)隣国として、福島の復興のために努力する過程を学び、その目標を応援しなければならない理由もそこにある。そして、このような過程の中で、個々人の福島に対する忌避も解消することに期待する。

2021年2月19日 (Instagram)

今まで知らなかった福島の魅力について知ることのできるプログラムだった。正直、以前は放射能の被害地域としてしか考えていなかったが、プログラムに参加したことで、福島県内でも放射線の検査を徹底して行い、商品を生産していることがわかった。福島の大学生たちは、福島の魅力を教えてくれたが、彼らは自分たちがすべきことや勉強を黙々と続けていた。日本への渡航制限が解除されたら、一度は福島に行ってみたい。

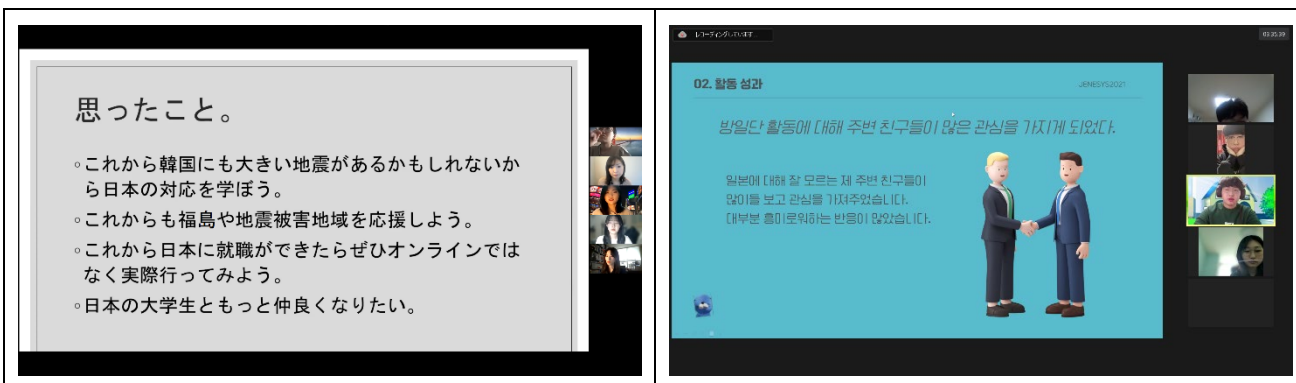
The screenshot shows the homepage of the JENESYS2021 website. The main headline reads "한일 관계 개선의 거름이 되는 한일 청년 교류: JENESYS2021". Below the headline is a photo of a person in traditional Korean attire standing next to a stone monument with inscriptions. The website layout includes a navigation menu at the top, a search bar, and a sidebar with various categories like "카테고리" and "실시간 영상물 뉴스".

The screenshot shows a social media post with the title "多様な深い交流目指して 韓日の若者に広がる活動 -被災地復興をオンライン視察". The post contains text in Japanese and Korean, along with several small video thumbnails showing participants in a virtual meeting. The text discusses the program's goals and the experiences of participants.

2022年3月4日 (Korea Youth Press Corps) 「日韓関係改善の礎となる日韓青年交流: JENESYS2021」 事業概要及び意義、福島オンライン視察、同世代交流をはじめとするプログラム日程の詳細を参加者が記事投稿し、広く発信した。

2022年3月19日 (統一日報) 「多様な深い交流目指して 韓日の若者に広がる活動 -被災地復興をオンライン視察」 被災地復興への理解に資するプログラム内容の紹介と共に、福島オンライン視察等のプログラム内容に関する発信を行った参加者たちへのインタビューが紹介された。

7. オンラインプログラムの成果発表



参加者の属性別に最終回で成果報告会を実施した。発表された主な内容は以下の通り。

-第1週目の高麗神社視察と外務省の講義を通して日韓交流の過去から現代までを改めて学ぶことができたと同時に、日韓交流の大切さを改めて実感した。

-東日本大震災復興ドキュメンタリー映画「一陽来復 Life Goes On」上映後、尹美亜監督が「皆さんが関心を持ってくれることが大事だ」と仰っていたが、私もこれを機に東日本大震災の被災地や被災者の方々を応援する気持ちと関心を途切れることなく持ち続け、周りの人たちにもつなげていきたいと思う。

-福島に関しては率直なところ否定的なイメージしかなかったが、今回のプログラムに参加し自分が偏狭な視点しか持っていなかったことを反省した。政治的な問題からは離れ、私たちは人として被災者を応援しなくてはいけないと思う。このように自分の視野を広げてくれたプログラムに感謝したい。

-大変興味深い経験となった。プログラムのことをInstagramで紹介したところ、日本について全く関心のなかった友達に関心を示してくれた。福島について関心を持たなければならないと自分でも福島のことを調べた結果、新たな知識を得ることができた。

-福島への認識が一変した。福島の農産物の検査体制、安全性を理解することができた。日韓の若い世代はお互いの文化に関心があることを改めて認識した。福島大学の学生たちが韓国語を学ぶ姿に感銘を受けた。

-福島の今の状況を見て、私たちは心を閉ざしてはいけないと思った。福島には韓国が好きな方々も多く、美味しそうなものもたくさんある。福島の方々ともお互い心を開いて交流していきたい。ぜひ福島を実際に訪れたい。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金